

# 『健康高齢者実習』プログラムに高齢者疑似体験を 組み入れた学習効果

～高齢者に対する年齢と色のイメージの変化より～

藤巻 尚美<sup>1)</sup> 流石 ゆり子<sup>1)</sup> 牛田 貴子<sup>1)</sup>

## 要 旨

本研究は『健康高齢者実習』プログラムに高齢者疑似体験を組み入れた実習が看護学生の高齢者イメージにどんな変化をもたらすのか、イメージする年齢と色から評価することを目的とした。49名の学生に無記名自記式質問紙調査を、実習開始前、実習中間（高齢者活動に参加後で疑似体験は未実施の状態）、実習終了後に実施した。その結果、①イメージする年齢は実習が進むにつれ上昇した。②実習開始前のイメージする年齢は一般大学生と大差はなく、イメージ色は静的なイメージが多かった。③イメージ色は活動的なイメージが実習と共に増加し、静的なイメージは実習開始前に比べ実習中間・実習終了後では減少したが、実習中間と実習終了後では大きな変化は見られなかった。以上より、学生は、高齢者の活動性に加え、疑似体験による実感を踏まえた心身の加齢変化を捉えており、この実習が高齢者に対する多様な見方を育成する学習形態であることが確認された。

キーワード：健康高齢者実習、高齢者疑似体験、高齢者イメージ、年齢、色

## I. はじめに

我が国は高齢社会を迎え、65歳以上の高齢者人口割合は急激に増加している。その一方、世帯数を世帯構成別にみると、三世帯世帯は減少、核家族世帯は増加傾向にあり<sup>1)</sup>、高齢者と家庭で接する機会が減っていることから、現代の日本人の高齢者イメージは否定的であるといわれている<sup>2)</sup>。看護学生についても、身近に高齢者と接したことのない学生が多く、高齢者に対する否定的な感情を持つ者も多い<sup>3)</sup>といわれており、保健・医療・福祉サービスにおいて、サービス提供者の高齢者に対する否定的イメージは、サービスの質の低下をもたらすことが報告されている<sup>3)</sup>。老年看護学教育の中では看護を必要とする高齢者と触れる実習が不可欠であるが、それが否定的イメージの強化につながる危険性があり、そのような実習の前に在宅の健康な高齢者と接する機会を提供することが必要であるといわれている<sup>3)</sup>。これに対し、

老人クラブ体験学習の教育的意義に関する研究<sup>5)</sup>や高齢者疑似体験の高齢者理解への効果に関する研究<sup>6)7)</sup>が見られる。また、この両方を組み合わせた教育について、流石ら<sup>8)</sup>は学生の高齢者実習終了後レポートの分析から、多彩な高齢者活動メニューと学内での高齢者疑似体験およびカンファレンスに関連づけた実習は高齢者理解を深める効果があると報告している。しかし、この実習の開始前・中間・終了後での学生の高齢者イメージの経時的変化は明らかにされていない。この変化を明らかにすることで、学生の高齢者理解についての教育への示唆が得られるものと考えられる。高齢者イメージの変化については、SD法を用いた研究<sup>4)10)11)</sup>がいくつかみられる。SD法は、通常いくつかの相反する形容詞を対語にして多段階尺度をつくり、それを被験者に評定させることにより意味の性質と強度を測定でき、現在イメージを測定する方法として最も一般的な方法である<sup>4)</sup>。し

(所 属)

1) 山梨県立大学 看護学部

(専攻分野)

老年看護学領域

表1 健康高齢者実習の目的・目標

<p>1. 実習目的</p> <p>高齢者理解を深めるための導入として、地域で生活している生活自立度が高い高齢者の諸活動に参加し、高齢者の生活実態、保健行動、Social Support、Productive Behavior等について学習する。</p> <p>2. 実習目標</p> <p>1) 地域で生活する健康高齢者（以下、主語を省略）は、どのような日課や生活リズムで毎日の生活を送っているのかが理解できる。</p> <p>2) 健康状態や自立した生活を維持・向上させるために、どのような保健行動をとっているのかが理解できる。</p> <p>3) 家庭や社会においてどのような役割を担い、どのような生きがいをもちながら生活しているのかが理解できる。</p> <p>4) 健康な老年期にある人のプロダクティビティーについて知りそれが個々の老年期にある人の「生活の質（QOL）」にどのように関わっているのかが理解できる。</p> <p>5) どのような人生観や価値観をもっているのを知り、それはどのような生活史に裏づけられているのかが理解できる。</p> <p>6) どのようなソーシャル・サポート・ネットワークをもち、その中でどのようなサポート（支援）を受けながら生活しているのかが理解できる。</p>
---

たがって、この方法は一方向のイメージを測定するには有効であるが、イメージの広がりや測定するには限界がある。一方、色には事柄の連想や観念の奮起という作用があり、他のどんな手段よりもイメージを効果的に表現できる<sup>9)</sup>といわれているが、「イメージする色」を用いた高齢者イメージに関する研究はみあたらない。

II. 研究目的

本研究は、健康高齢者を対象とした実習プログラムに高齢者疑似体験（以下、疑似体験とする）を組み入れた実習の学びが、看護学生の高齢者イメージにどのような変化をもたらすのか、高齢者をイメージする年齢と色から評価することを目的

とする。

III. 健康高齢者実習の概要

1. 実習時期・期間・目的

実習は、2年次後期に1週間（1単位）実施している。目的は地域で生活している生活自立度が高い高齢者の諸活動に参加し、高齢者の生活実態、保健行動、Social Support、Productive Behavior等について学習し、高齢者理解を深めることである。実習目的・目標の詳細は表1に示す。

2. 健康高齢者実習の展開（図1参照）

1) 地域での高齢者活動に参加

高齢者の諸活動へ高齢者とともに参加し、地域

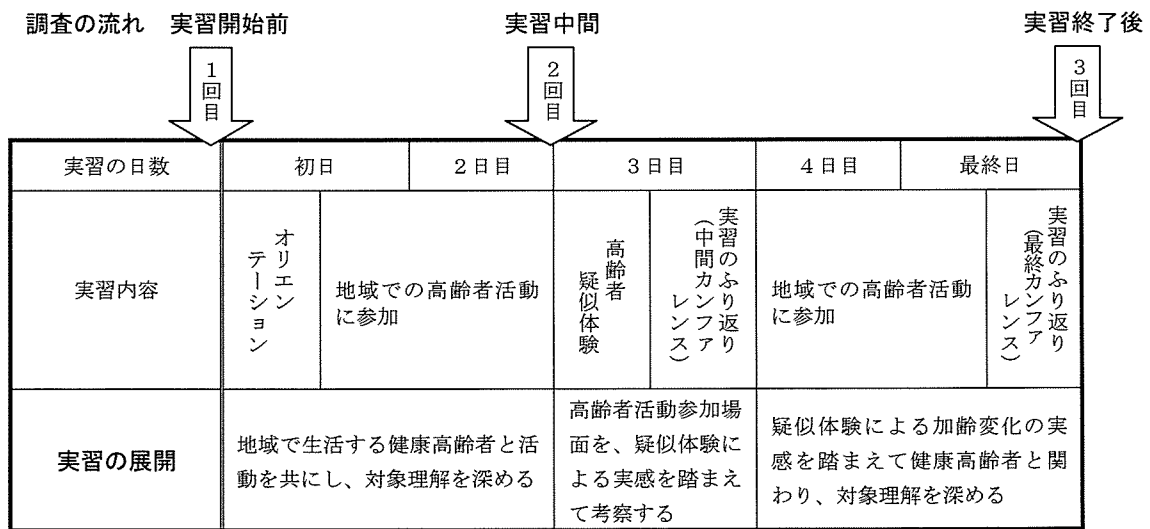


図1 実習の展開と調査の流れ

で生活する健康高齢者を理解する。

## 2) 高齢者疑似体験と中間カンファレンス

学生は疑似体験により、加齢に伴う身体変化とそれに伴う心理・社会的変化を実感する。また、実習のふり返りの一環として位置づけた中間カンファレンスでは、疑似体験での実感をグループで共有し、疑似体験と高齢者諸活動への参加体験をあわせて、加齢変化とそれへの適応や、老いへの受け止め方などについて考察する。

## 3) 疑似体験での実感を踏まえて、再び地域での高齢者活動に参加

疑似体験による加齢変化の実感を踏まえて、高齢者と関わることで、加齢変化と老いへの受け止め方・適応などをより深く理解する。

## IV. 研究方法

### 1. 対象

健康高齢者実習を履修している本学看護学科2年次生で、調査の趣旨を理解し、研究参加への同意の得られた49名を対象とした。

### 2. 調査方法 (図1参照)

無記名の自記式質問紙調査を3回実施した。1回目は実習開始前に、2回目は実習中間(高齢者諸活動に2日間参加し、疑似体験は未実施の状態)、3回目は実習終了後である。いずれも、調査票はその場で配付・回収を行った。なお、いずれの調査も回答所要時間は2～3分程度である。

### 3. 調査内容

#### 1) 高齢者イメージに影響する個人的要因

高齢者イメージに影響する個人的要因とし、祖父母との同居経験の有無、同居経験の年数、同居

の祖父母・別居祖父母・祖父母以外の高齢者との接触頻度について調査した。なお、接触頻度については「かなりある」～「全くない」の5件法で調査した。

#### 2) 高齢者イメージについて

高齢者イメージとして、学生が高齢者をイメージする年齢(以下イメージ年齢)、学生が高齢者をイメージする色(以下イメージ色)(自由記載・複数回答可)について調査を行った。

## 4. 分析方法

高齢者イメージに影響する個人的要因および、イメージ年齢、イメージ色に関し、基本統計量の算出を行った。イメージ年齢の各調査時点での比較および接触頻度による比較は一元配置分散分析で(多重比較はBonferroni)、同居経験による比較はt検定で行った。なお、全ての分析は統計パッケージExcel統計2004 for windowsを用いた。

## 5. 倫理的配慮

学生には実習開始前に書面および口頭で、研究の趣旨説明および協力依頼を行った。各調査前には学生に対し、研究への参加は任意であること、個人の成績などへの影響はないこと、調査内容は統計的に処理することなどをその都度伝え、研究参加への同意の得られた学生に対してのみ、無記名自記式質問紙調査を実施した。また、匿名性が保持できるよう、質問項目には学籍番号・性別・年齢などは含めず、各調査時点のマッチングは携帯電話番号の下4桁を記入してもらうことで行った。

表2 高齢者との接触頻度

	同居祖父母 n=22		別居祖父母 n=46		祖父母以外との高齢者 n=46	
	人数	%	人数	%	人数	%
かなりある	11	50.0	13	28.3	3	6.5
どちらかというところ	6	27.3	14	30.4	3	6.5
どちらともいえない	1	4.5	7	15.2	8	17.4
どちらかというところない	1	4.5	10	21.7	17	37
全くない	3	13.6	2	4.3	15	32.6

V. 結果

1. 高齢者イメージに影響する個人的要因

有効回答46名、有効回収率93.9%であった。分析対象46名中祖父母との同居経験ありは22名(47.8%)、なしは24名(52.2%)であり、平均同居年数は16.1±5.5年、範囲は2~20年であった。同居祖父母との接触頻度は「かなりある」「どちらかというところ」とあると17名(77.3%)であった。別居祖父母との接触頻度は、「かなりある」「どちらかというところ」とあると、27名(58.7%)、祖父母以外の高齢者では6名(13.0%)であった(表2)。

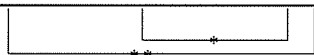
2. 高齢者イメージについて

1) 高齢者をイメージする年齢

イメージ年齢の平均値±SDは、実習開始前は72.9±5.8歳、実習中間は75.8±6.0歳、実習終了後は79.5±7.6歳で、一元配置分散分析で有意差がみられ(p<.01)、多重比較では実習開始前と実習終了後(p<.01)、実習中間と実習終了後(p<.05)で有意な差が見られた(表3)。

表3 各調査時点におけるイメージ年齢(平均値)の比較

	実習開始前	実習中間	実習終了後
平均値	72.9	75.8	79.5
標準偏差	5.8	6.0	7.6



一元配置分散分析(多重比較: Bonferroni) \*p<.05 \*\*p<.01

また、各調査時点でのイメージ年齢を祖父母との同居経験の有無で比較すると、実習開始前および実習中間では有意な差は見られなかったが、実習終了後では「同居経験あり」は76.0±5.6歳、「同居経験なし」は82.8±8.0歳であり、「同居経験なし」の方がイメージ年齢は有意に高かった(p<.01)(表4)。

表4 各調査時点におけるイメージ年齢(平均値)の同居経験による比較

	同居経験あり	同居経験なし
	n=22	n=24
実習開始前	72.4 ± 5.4	73.3 ± 6.4
実習中間	74.1 ± 5.8	77.4 ± 6.0
実習終了後	76.0 ± 5.6	82.8 ± 8.0 **

t検定 \*\*p<.01

同居祖父母・別居祖父母・祖父母以外の高齢者との接触頻度別にイメージ年齢を比較したところ、どの調査時点でも有意な差はみられなかった。

2) 高齢者をイメージする色

イメージ色は実習開始前は28種類の回答があ

表5 各調査時点におけるイメージ色の回答件数(複数回答 件)

イメージ色	実習開始前	実習中間	実習終了後
白	8	7	12
クリーム	0	1	0
薄黄	0	0	1
黄	4	14	17
山吹	2	2	1
オレンジ	7	11	14
橙	1	2	2
朱	0	1	0
紅	0	2	1
赤	2	11	12
暗めの赤	1	0	0
えんじ	4	4	3
ワイン	1	1	1
ピンク	0	3	7
肌色	1	0	0
ベージュ	4	2	3
紫	13	11	8
濃紺	0	1	1
紺	2	0	0
深い青	1	0	0
青	3	7	6
水色	0	2	3
抹茶	1	0	0
カーキ	0	1	0
緑	4	8	12
緑+黒	1	0	0
濃緑	0	0	1
深緑	8	3	2
黄緑	0	0	2
黄土	4	0	1
茶	26	20	20
赤茶	2	0	0
こげ茶	1	0	0
灰・グレー	28	12	10
黒	4	3	3
金	1	1	3
銀・シルバー	5	3	1
深みのある色	1	0	1

注) 学生が記載した表現をそのまま掲載

り、「灰・グレー」が28件と最も多く、次いで「茶」が26件、「紫」が13件であった。実習中間は25種類の回答があり、「茶」が20件、「黄」が14件、「灰・グレー」が12件であった。実習終了後は27種類の回答があり、「茶」が20件、「黄」が17件、「オレンジ」が14件であった。実習開始前には「ピンク」という回答はなかったが、実習中間には3件、実習終了後には7件あった（表5）。

イメージ色の各調査時点での変化を見ると、最も変化が大きかったのは、「灰・グレー」であり、次いで「黄」、「赤」、「茶」であった。このうち、「灰・グレー」、「茶」は実習中間で大幅に数が減ったがその後は維持されており、「黄」、「赤」は実習が進むとともに増えていった（表5）。

## VI. 考察

### 1. 実習開始前における看護学生の高齢者イメージ

一般大学生を対象とした横断調査<sup>4)</sup>では、対象者のほとんどが高齢者のイメージ年齢を65歳から79歳までとしている。看護学生を対象とした本調査では、実習開始前の高齢者のイメージ年齢の平均は72.9±5.8歳であり、一般大学生と大差がないといえる。また、実習開始前のイメージ色は明度が中間の「灰・グレー」が一番多く、次い

で彩度の低い「茶」、中性色である「紫」と続き、色と感情の関係<sup>13)</sup>（表6）から、「落ち着き」、「渋み」、「中庸・平静・平凡」などの静的なイメージを抱えていることがわかる。本調査の対象者は、半数以上が高齢者との同居経験がなく、祖父母以外との高齢者との接触頻度は6割以上が「ない」としており、実習開始前の学生の抱く高齢者イメージは、実際の高齢者の姿が反映されていない可能性が考えられる。大谷ら<sup>12)</sup>は、学生の「近所およびテレビの中の高齢者」のイメージはネガティブに傾き、祖父母以外の高齢者に対するイメージはステレオタイプなネガティブなものとなることを報告している。また、看護学生は高齢者を看護ケアの対象者として捉えているため、一般学生よりも否定的イメージを抱く傾向があるともいわれている<sup>14)</sup>。今回の調査で、実習開始前の学生が高齢者に対して静的なイメージを抱いていたのは、ステレオタイプな高齢者イメージを持っていたことや、看護ケアの対象となる高齢者をイメージしていた可能性が考えられ、幅広い視点での高齢者理解のためには、健康な高齢者と実際に活動をともにすることが必要である。

### 2. 実習による看護学生の高齢者イメージの変化

本調査では、祖父母との「同居経験あり」「同

表6 色と感情の関係

属性種別		感情の性質	色の例	感情の性質
色相	暖色	暖かい	赤	激情・怒り・歓喜・活力的・興奮
		積極的	黄赤	喜び・はしゃぎ・活発さ・元気
		活動的	黄	快活・明朗・愉快・活動的・元気
	中性色	中庸	緑	安らぎ・くつろぎ・平静・若々しさ
		平静 平凡	紫	厳肅・優えん（婉）・神秘・不安・やさしさ
	寒色	冷たい	青緑	安息・涼しさ・憂鬱
消極的		青	落ち着き・淋しさ・悲哀・深遠・沈静	
沈静的		青紫	神秘・崇高・孤独	
明度	明	陽気・明朗	白	純粹・清々しさ
	中	落ち着き	灰	落ち着き・抑鬱
	暗	陰気・重厚	黒	陰鬱・不安・いかめしい
彩度	高	新鮮・発らつ	朱	熱烈・激しさ・情熱
	中	くつろぎ・温和	ピンク	愛らしさ・やさしさ
	低	渋み・落ち着き	茶	落ち着き

出典) 日本色彩学会編：新編 色彩科学ハンドブック第2版，379-382，東京大学出版会，1999。

居経験なし」とともに実習が進むにつれ、学生の高齢者をイメージする年齢は上昇していたが、実習終了後では「同居経験なし」のイメージ年齢は「同居経験あり」に比べ有意に高いという結果であった。大谷<sup>12)</sup>は接して印象に残った高齢者の有無が看護学生の高齢者イメージ形成に影響を与えることを報告している。本実習は、特に、祖父母との同居経験のない学生の高齢者イメージに大きな影響を与えていることが示唆された。

本調査のイメージ色の変化を見ると、「黄」「赤」といった、「暖かい・積極的・活動的」を表す暖色<sup>13)</sup>は大きな変化が見られており、実習が進むとともに増加していた。また、「愛らしさ・やさしさ」を表す「ピンク」は<sup>13)</sup>、実習中間で初めて見られ、実習終了後には増加した。学生の高齢者イメージの形成には実際に高齢者との印象に残るような経験が重要である<sup>12)</sup>。本結果は、学生の高齢者イメージが、年齢だけにとらわれたステレオタイプなものではなく、活動的なものへと変化したことを示しており、学生は実習で健康な高齢者と活動をともにすることで、その姿をありのままに捉えられたと考えられる。

一方、「落ち着き・憂鬱」を表す「灰」や、「落ち着き」を表す「茶」<sup>13)</sup>は、実習中間で大幅に件数が減少していたがその後は維持されていた。「灰・グレー」「茶」が実習中間で大幅に減少したことは、活動的なイメージが実習とともに増加していったことを踏まえると、高齢者活動への参加により、高齢者イメージが静的なものから活動的なものに変化したためと考えられる。しかし、実習中間と実習終了後では活動的なイメージ色が増えているにもかかわらず、静的なイメージ色に大きな変化は見られなかった。流石ら<sup>8)</sup>は、学生の実習終了後レポートの分析で、学生は、高齢者活動参加からは健康な高齢者の活動的な部分だけでなく高齢者が獲得してきた豊富な経験知を理解していたこと、疑似体験からは加齢変化や疾病に対する不安を抱えながら生活している高齢者の特性を理解していたことを報告している。本調査の実習中間と実習終了後で「灰・グレー」「茶」が維持されていたのは、学生が高齢者の活動性だけ

に焦点を当てていたのではなく、疑似体験による心身の加齢変化の実感を踏まえ改めて対象を捉えていた為と考えられる。

老年看護が対象とする高齢者は多様であり、老年看護学の教育内容は学生が高齢者を見る見方がどれだけ多様になったかどうかを評価すべきである<sup>15)</sup>。本研究では、学生の高齢者イメージは、実習開始前には静的なイメージが多かったが、実習終了後には活動的なイメージと静的なイメージの両方が存在していた。健康高齢者実習プログラムに疑似体験を組み入れた実習は、高齢者に対する多様な見方を育成する学習形態であるといえる。

## VII. 研究の限界

本研究では、学生の高齢者イメージを年齢と色から評価したが、「イメージする色」については、直接的なデータを得るために自由記載とし、得られたデータを、ある程度の普遍性にある「色と感情の関係」の資料<sup>13)</sup>から考察する方法をとった。しかし、色の持つ意味合いが直接高齢者イメージにつながることは言及できず、色イメージの変化の理由を学生自身の直接の言葉からも分析し、評価していく必要がある。また、得られたデータの比較検討のためには、尺度統制が必要であり、この視点からは、カラーシンボルテスト<sup>16)</sup>の色彩表を用いた高齢者イメージの評価なども、今後は必要である。

## 参考文献

- 1) 厚生統計協会:国民衛生の動向 厚生指標, 53, 35-36, 2006.
- 2) Koyano W : Japanese attitudes toward the elderly ; A review of research findings, Journal of Cross-Cultural Gerontology, Vol.4, 335-345, 1989.
- 3) 古谷野亘, 安藤孝敏:新社会老年学 シニアライフのゆくえ, 23, ワールドプランニング, 2003.
- 4) 保坂久美子, 袖井孝子:大学生の老人イメージ—SD法による分析—, 社会老年学, 27巻, 22-33, 1988.
- 5) 石川睦弓, 佐藤敏子, 柿川房子:老人クラブ体験学習の教育的意義に関する研究—体験学習前後の高齢者イメージの検討—, 三重看護学誌, Vol.3 (1), 155-165, 2000.

- 6) 佐藤弘美, 湯浅美千代, 田川由香, 正木治恵, 野口美和子:「老年期を生きる」を理解する授業の展開 シミュレーションゲームを用いて, 看護教育, 37巻4号, 280-284, 1996.
- 7) 堀口由美子:Imagination Aging 老人理解のための擬似体験, 看護教育, 38巻6号, 453-45, 1997.
- 8) 流石ゆり子, 亀山直子:『健康高齢者実習』の意義—学生の実習終了後レポートの分析による学習内容の検討—, 日本老年看護学会誌, Vol.9 (1), 65-75, 2004.
- 9) 大山正, 今井省吾, 和気典二編:新編 感覚・知覚心理学ハンドブック, 528-535, 誠信書房, 1994.
- 10) 古城幸子, 木下香織, 馬本智恵:老年看護学の授業による学生の高齢者イメージの変化 第2報 老年看護学Ⅱ演習の授業評価, 新見公立短期大学紀要, 24巻, 25-33, 2003.
- 11) 大塚邦子, 正野逸子, 日浦瑞枝, 白井由里子:看護学生の老人のイメージに関する研究—SD法によるイメージ評価と描写特徴とを中心に—, 日本老年看護学会誌, Vol.10 (1), 98-104, 1999.
- 12) 大谷栄子, 松木光子:老人イメージと形成要因に関する調査研究(1) 大学生の老人イメージと生活経験の関連, 日本看護研究学会誌, 18巻4号, 25-37, 1995.
- 13) 日本色彩学会編:新編 色彩科学ハンドブック第2版, 379-382, 東京大学出版会, 1999.
- 14) 奥野茂代:老年看護における高齢者観の再考, 日本老年看護学会誌, Vol.7 (1), 5-12, 2002.
- 15) 桑原洋子, 水戸美津子, 飯吉令枝:“老人観”に関する研究の問題, 新潟県立看護短期大学紀要, 第2巻, 47-58, 1997.
- 16) 松岡剛:色彩とパーソナリティ, 115-142, 金子書房, 1995

# Learning Effects of a Practical Training Program of the Healthy Elderly Including Simulated Experiences

—With Reference to Changes in the Images of Age and Color in the Elderly—

FUJIMAKI Takami, SASUGA Yuriko, USHIDA Takako

Key words : Practical Training Program of the Healthy Elderly, Simulated Experiences, Images in the Elderly, Ages, Colors